

学校点描

227名の生徒とともに、平成30年度がスタートしました。

《S中学校》

NO.1 H30. 4. 10

担当：教頭

今年度、本校の教頭として赴任しました高橋晋作と申します。3年ぶりにS市に戻ってきました。昨年度まではM町で勤務しておりました。どうぞよろしくお願い致します。

本校に初めて来た日、K校長から「目標をイメージして、熱中して学んでいく生徒を育てたい。」と熱い思いを聞きしました。確かに、今の中学生は、無料ゲームアプリには熱中しますが、それ以外のところで本気になって熱中する機会は少ないように感じます。

4月8日の入学式を通して、中学生が成長していく過程の姿を見ることができました。新入生の中には式の間、クスクス、ニヤニヤしている生徒も見受けられます。一方、その背後には、微動だにしない2、3年生。2、3年生の真剣に式に参加する姿勢が、入学式に心地よい緊張感をもたらせてくれました。中学時代の1年、2年間の成長は本当にすごいものです。

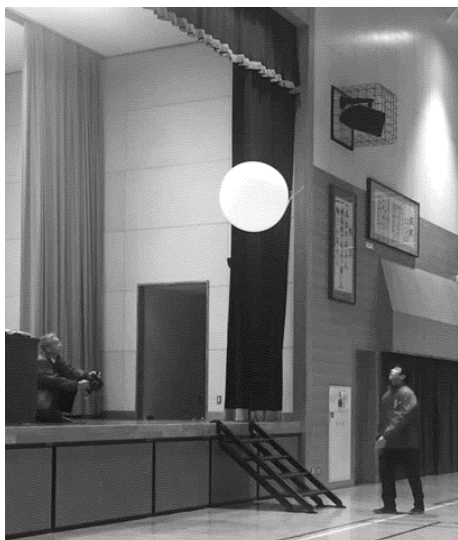
入学式も予定通りに進み、新入生代表の誓いのこととなりました。新入生代表として〇〇さんが、緊張の中はきはきと中学生生活の目標を述べてくれました。一生懸命練習して本番に臨んでくれたことがわかります。

最後に披露した上級生の合唱は、まだまだよくなる余地がありそうです。

答えを教えない間かけ

4月のスタートは、さまざまな式が行われることから始まります。新任式や始業式、そして入学式、対面式などです。この時期活躍するのは3年生。入学式が終わり、体育館で新入生の記念写真に混ぜてもらいます。後方では、3年生が入学式会場の撤収を始めました。3年の先生方は「あーしろ、こーしろ」なんて細かな指示は出しません。特に3年生の女子生徒は、本当によく働きます。与えられた役割だけでなく、あたりを見回して、仕事をみつけてはどんどん撤収を行っています。その姿に驚かされました。

今日まで行われた式の中で2つのユニークな場面がありました。まずは、4月6日の新任



式後の始業式での1コマです。『校長先生のはなし』は、今年度の生徒に願う、あの“熱中する学び”についての話でした。その後、理科担当のH先生もステージに登壇して、大実験が行われました。圧縮した空気を大量に送風する“ブロワ”という機械を使って、大小さまざまな“もの”を空中に浮かべるのです。

丸いものやカップラーメンの容器、小さなピンポン玉や巨大な風船などを宙に浮かべます。どの生徒の目も興味津々です。実験がうまくいったものもあれば、失敗したもの

もありました。最後に、校長先生が「では宿題です。どうしてこれらの宙に浮いたものは、下からの風で吹き飛ばされず、そこに静止したのか？わかった人は、校長室まで」そ

う言って、始業式の挨拶を終えました。

次の1コマは入学式の中でありました。来賓祝辞の中で、父母と教師の会会長のS会長の式辞がユニークでした。中学生活に必要な5つのことについてクイズ形式をするというものです。さらにクイズの答えをつなぎ合わせると『E・n・j・o・y（楽しむ）』となり、中学校時代を大いに楽しめという会長のメッセージが込められていました。

2つに共通しているのは、答えは自分で考えさせるための“答えを教えない問いかけ”です。自分ならどう思うか、どう考えるかという思考の世界に誘うのです。

中国語に『授人以魚 不如授人以漁』という言葉があります。日本語にすると『魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教えよ』でしょうか。古くは老子が言った言葉とされています。要するに、「人に魚を与えると1日で食べてしまう。しかし人に釣りを教えれば生涯食べていく事が出来る」と言う内容ですね。

教育ではよく例えとして使われるこの言葉も、日常の生活においては、なかなか実践されません。さっさと答えを言った方が、早く済むし簡単だからです。しかし、指示ばかり与えて、それで子どもは本物の力を得ることはできるのでしょうか。

『答えを教えない問いかけ』とは、「どうしたらいい？」「あなたならどう考える？」「この失敗をどう活かす？」こんな言葉の投げかけをいいます。『答えを教えない問いかけ』により、子どもは人生を生き抜くための力を確実に身に付けていくのでしょ

男子生徒の一部が、遊びながら椅子を仕舞っていると、「やめなさい！」と女子生徒がぴしゃりといいます。

大人の指示ではなく、生徒たち自身が“どうしたらいいのか”を考える場面は、見回すとあちらこちらに転がっています。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp

★給食で使用する空弁当箱持参の件について、ご迷惑をおかけしています。ご協力のほどよろしくお願いします。